

日本街あかり考 －日本の住宅街路照明に関する考察－

日大生産工 ○山家 哲雄

1. はじめ

日本の戦後復興と経済成長は目覚ましく、戦後わずかな期間で、日本は経済発展を遂げ、その社会発展は、我々の生活を豊かにした。

その結果、我々の生活文化は多様化し、夜間に行動する機会も多くなった。それ故に、街路は安全であると同時に快適なものであることが求められている。

本論文は、日本と欧州の「住宅文化」「街路文化」および「街あかり（夜の街並みを照らす照明デザイン手法）」について比較、検討、考察し、日本の住宅街路照明に関する問題点を明らかにした。

2. 日本の住宅文化と街路文化(街並み)

日本の住宅文化（住宅システム）は、保守主義の傾向を持つと共に、幾つかの特徴的なあり方で形成されている。

第一は、「持ち家志向」である。第二は、住宅を単に暮らす場所としてだけで捉えるのではなく、私的財産として捉える「資産志向」である。そして、第三は、日本の「木の文化」の象徴ともいえる「木造住宅」の構造に起因する「建物寿命の短さ」である。

現代日本の住宅街の街路文化(街並み)は、近代的な 洋風の「戸建住宅」によって形成されている。その多くは街路と接する敷地周辺部に前庭、自家用車の駐車場などの空間を持つと共に、私的財産である敷地の周りを、石やコンクリート製のブロック塀、もしくは金属製のフェンスなどで囲み、一軒一軒が、閉鎖的な構造となっていることが特徴である。

これらの特徴により、日本の住宅街の街路文化(街並み)は、住居が街路より奥まった位置に建てられた家々の集合（家並み）によって街並みが形成されている。また、建蔽率により、隣家との間に隙間や空間が生じることとも特徴である。

3. 日本の街あかり(住宅街路照明)

日本の多くの街あかり（住宅街路照明）の特徴は、道路に沿って規則正しく、ほぼ等間隔に配置された電柱上に街路照明器具(街灯)が設置されているため、街路照明の光が一際目立つ夜の風景である。その結果、どの街でも似通った夜景、雰囲気となり、その街の持つ個性・魅力が感じ取れない状況である。

また、日本固有の街路文化（街並み）により、街路上の随所には、家々の周辺部に奥まった空間(void; ボイド)が存在し、必然的に、多くの「闇溜まり」が生まれる。その結果、日本の夜の街路（夜道）は、暗く、不安感やストレス抱く空間となっている。(図1参照)

4. まとめ

一日の仕事を終え、家路に向かう時、最寄り駅の繁華街を離れて、住宅街に足を踏み入れると、小さなあかり(窓から漏れ出す生活の光)に、思わずほっとすることがある。

窓を通して街へ漏れだす人々の生活を感じ、この光には、心を和ませる大きな魅力が宿っている。この小さなあかりが街いっばいに広がっていくことで、素敵な夜の街の風景(街並み)が創りだされると、著者は考える。その街らしさ、街の個性、街の魅力を引き出す街あかりのデザインは、後世に残すべき「日本の美しい光文化」の継承に寄与するものと提言する。

《参考文献》

- 1) Tetsuo YAMAYA, et al.: "Fundamental Research on the Street Culture and the Lighting Design of Japan and Europe", Proceeding of 7th Lux Pacifica (2013)

Corresponding Author:

Assistant Professor Tetsuo YAMAYA
Affiliation : Department of Conceptual Design,
 College of Industrial Technology,
 Nihon University
Address : 1-2-1 Izumi-cho, Narashino-shi, Chiba
 275-8575, JAPAN
e-mail : yamaya.tetsuo@nihon-u.ac.jp

A study on the street lighting in Japan
 - Consideration about the street lighting in residential area of Japan -

Tetsuo YAMAYA



図1 日本と欧州の街路文化(街並み)と街あかり(住宅街路照明)の比較